

2024年4月9日

## わが国最大の学会誌で、診断・治療が難しい甲状腺の病気 「甲状腺ホルモン不応症」について解説を行いました。

本学生物・医学の石井角保教授は、わが国最大の学会誌である「日本内科学会雑誌」で、診断・治療が難しい「甲状腺ホルモン不応症」という病気について解説を行いました。甲状腺ホルモン不応症は「バセドウ病」という別の甲状腺疾患などと間違えられやすく、不適切な治療が行われることも珍しくないため、多くの内科医が所属する学会の会誌で解説を行うことによって、より適切な診療が普及することが期待されます。

## 甲状腺ホルモン不応症： 診断と治療

### 要旨

甲状腺ホルモン不応症は、主にβ型甲状腺ホルモン受容体遺伝子変異のため、ホルモンに対する反応が減弱する疾患である。β型受容体が制御するネガティブフィードバック機構が障害され、甲状腺ホルモン高値で甲状腺刺激ホルモン（TSH）が基準値～高値となるが、TSHが低値となるバセドウ病と見分けることが重要である。近年、日本甲状腺学会が世界初となる診療の手引きを策定しており、そのポイントについて概説する。

石井角保

### 1. 本件のポイント

- 甲状腺ホルモン不応症はバセドウ病などと間違えられやすく、不適切な治療が行われることも少なくない。
- 石井教授は、日本甲状腺学会の研究グループで、わが国の甲状腺ホルモン不応症の診断基準や治療の手引きなどを策定してきた。これは世界初の成果である。
- 今回、多くの内科医師が所属する学会誌で解説を行ったことにより、今後甲状腺ホルモン不応症の診療がより適切に行われることが期待される。

## 2. 本件の概要

本学生物・医学の石井角保教授が、日本内科学会雑誌で、診断・治療が難しい甲状腺ホルモン不応症について解説を行いました。

### 【研究の背景】

のどぼとけの下にある「甲状腺」という臓器は、「甲状腺ホルモン」というホルモンを作っています。甲状腺ホルモンは体の代謝を活発にしたり赤ちゃんの脳の発達を促したりする重要な作用があるため、ホルモンが多すぎたり少なすぎたりすると体に異常が生じます。

**甲状腺ホルモン不応症**というのは、甲状腺ホルモンは血液の中にたくさんあるのにホルモンが十分に働かなくなる、生まれつきの病気です。この病気は国の指定難病に制定されています。甲状腺ホルモンが多くなる他の代表的な病気に「バセドウ病」がありますが、甲状腺ホルモン不応症でもホルモンの数値が高くなるため、甲状腺ホルモン不応症の患者さんはバセドウ病と間違えられて不適切な治療をされてしまうこともあります。甲状腺ホルモン不応症は4万人に1人くらいの割合で発症するという論文があり、この割合だとわが国には約3000人の患者さんがいる計算になりますが、実際にこれまでに報告されているのは100人ほどです。そのため、甲状腺ホルモン不応症の患者さんの多くは、バセドウ病などと間違えられていたり、病気があることに気づいていなかったりすることが予想されます。

このような状況の原因の一つに、甲状腺ホルモン不応症をどのように診断・治療するのが良いかという指針が世界的にも存在しないということが挙げられていました。そこで、石井教授たち日本甲状腺学会の研究グループは、甲状腺ホルモン不応症の診断及び治療についての方針を提唱する「診療の手引き」を2023年に世界で初めて作成しました。この成果は、わが国における診断基準などとして厚生労働省の指定難病制度で活用されています。今回は、主に内科医が所属するわが国最大の学会、日本内科学会が刊行する日本内科学会雑誌で、診療の手引きの内容を踏まえて甲状腺ホルモン不応症の解説を行いました。

### 【研究の内容】

甲状腺が専門でない内科医師を主な対象として、甲状腺ホルモン不応症の解説を行いました。まず、この病気がバセドウ病と間違われやすいことを指摘して、診療の手引きの策定に至る経緯を簡単に説明しました。次にどんな病気であるかを解説しましたが、ここではバセドウ病と見分けるポイントを強調しています。続けて、どのように診断するかについて解説しました。診断については、甲状腺ホルモン不応症と紛らわしい様々な状況をどうやってこの病気ではないと判断するかということに力

を入れました。最後に、診療の手引きの内容に沿って、現時点で最良と思われる治療方針を解説しました。

#### 【社会的意義と今後の展望】

日本内科学会は、2024年1月時点で120,608名の会員がいるわが国最大の学会で、会員の多くは内科医師です。多くの医師には心臓や肺などそれぞれ専門とする分野がありますが、一人の患者さんが複数の病気にかかっていたり、一つの病気のせいで色々な分野に関連する症状が出たりということも多いため、内科医師は専門ではない分野の病気も診療することが多くあります。そのため、甲状腺を専門としない多くの内科医師に向けて学会誌で甲状腺の病気を解説することは、日常の診療に役立つと考えられます。甲状腺ホルモン不応症はバセドウ病などと間違えられやすく、不適切な治療が行われることも珍しくなかったのですが、本解説の刊行により、この疾患を専門としていない医師を含めて、より適切な診療が行えるようになると期待されます。

なお、石井教授は、2024年7月18日18時30分より本学いきいきサロンで「危険な「やせ薬」から子供の知能まで～甲状腺について」という公開講座を予定しております。参加費無料、要申込となっておりますので、甲状腺にご興味がある方はぜひ足をお運びください。詳細は次のセクションに記載してあるリンクをご参照ください。

#### 【論文/書籍情報】

石井角保. 甲状腺ホルモン不応症：診断と治療. 日本内科学会雑誌 第113巻第4号 印刷中. 2024年4月.

(参考)日本甲状腺学会編集. 甲状腺ホルモン不応症診療の手引き. 南江堂, 東京. ISBN: 978-4-524-23386-1. 2023年4月.

### 3. 関連リンク

新潟県立看護大学 いきいきサロン (公開講座のご案内)

<https://www.nirin.jp/salon/>

難病情報センター 甲状腺ホルモン不応症

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/99>